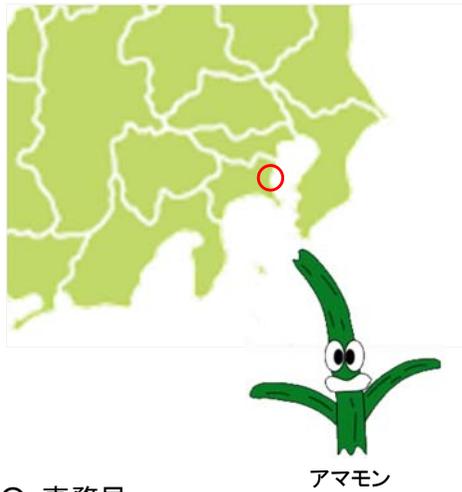


対象地域：神奈川県

再生課題：海と地域社会、暮らしのつながりの再生



アマモン

- 事務局
金沢八景一東京湾アマモ場再生会議
- 構成員
地元小学校、地元住民
金沢八景一東京湾アマモ場再生会議
NPO法人海辺つくり研究会
横浜市漁業協同組合 ほか
- 対象地域
横浜市金沢区の海辺
(横浜海の公園、横浜ベイサイド
マリーナ隣接海域など)
- 活動開始：H12頃

(R4.2現在)



アマモ苗

かなざわはっけいーとうきょうわんあまもばさいせいかいぎほか 金沢八景一東京湾アマモ場再生会議ほか

再生
目標

多様な主体が連携協働し、アマモ場再生活動を中心とした海辺の自然再生活動をきっかけとして、人々の海への関心を高めて、人と海とのつながり、地域社会、伝統文化などの再生を目指す



横浜港内のアマモ

自然再生の手法

- アマモ場再生活動（種子採取と播種、苗の生産と移植）
- 上皇皇后陛下のお手渡しアマモの移植（第25回全国豊かな海づくり大会：H17）
- 漁業協同組合と連携した種苗生産・再生活動
- 海辺の環境学習（地元小学校の出前授業、環境学習会の開催等）
- 金沢区小学校校長会への協力依頼
- 市民や行政、漁業者等への情報発信
- 地元神社との連携による祭祀の復活
- 地元企業の参加促進 など

横浜市金沢区は、歌川広重の「金沢八景」にも描かれているように、かつては広大な干潟やアマモ場が広がっていましたが、都市開発や港湾開発によって、アマモ場は横浜で唯一となった自然海岸である野島海岸にわずかに残るだけとなりました。また、赤潮の発生や大量のアオサが砂浜や干潟に打ち上げられ腐敗することによる悪臭等が問題となったほか、開発により人々の生活と海が隔絶され、身近な海辺への関心が失われたことで海辺環境の劣化が進行しました。これにより、海を生業の場とする漁業者と地域社会との結びつきも希薄となり、伝統的な地域文化も失われつつありました。

そこで、アマモ場を保全・再生・拡大しようと、ボランティアダイバーや専門家が多く所属するNPO法人が中心となり再生活動を試みましたが、大規模な赤潮によってアマモや二枚貝に深刻なダメージが生じたため、多様な主体が連携した組織的な活動が必要となり、現在の形で活動が始まりました。

ここに注目！

地域社会との結びつきを意識した取組の推進

アマモの種子や花枝採取、移植等の再生活動は、広く市民が参加できるイベントとしても実施しています。地域社会との結びつきを再生するためには、将来世代の育成や多様な関係者の連携・協働、垣根のない情報発信が不可欠と考え、継続して取り組んでいます。



花枝採取会